

3

189

東 泉 函 書 館

類	屬	函	架	七	八
冊	号	架	号	九	九

陸軍士官學校編纂
兵要地誌

大日本之部
陸奥

卷之三十三

No. 900

兵要地誌

日本部

陸奥國誌

兵要地誌 大日本之部卷之三十三 目錄

陸奥國誌

總論

山論

西南脈

東南脈

西北脈

東北脈

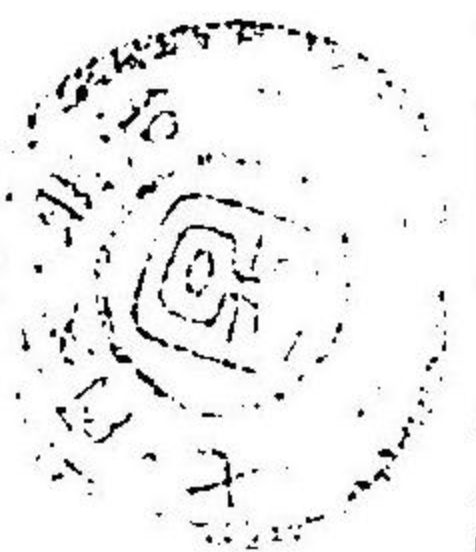
水論

水經ノ區劃

太平洋ノ水經

内海ノ水經

一	二	二	三	五	五	六	六	十
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



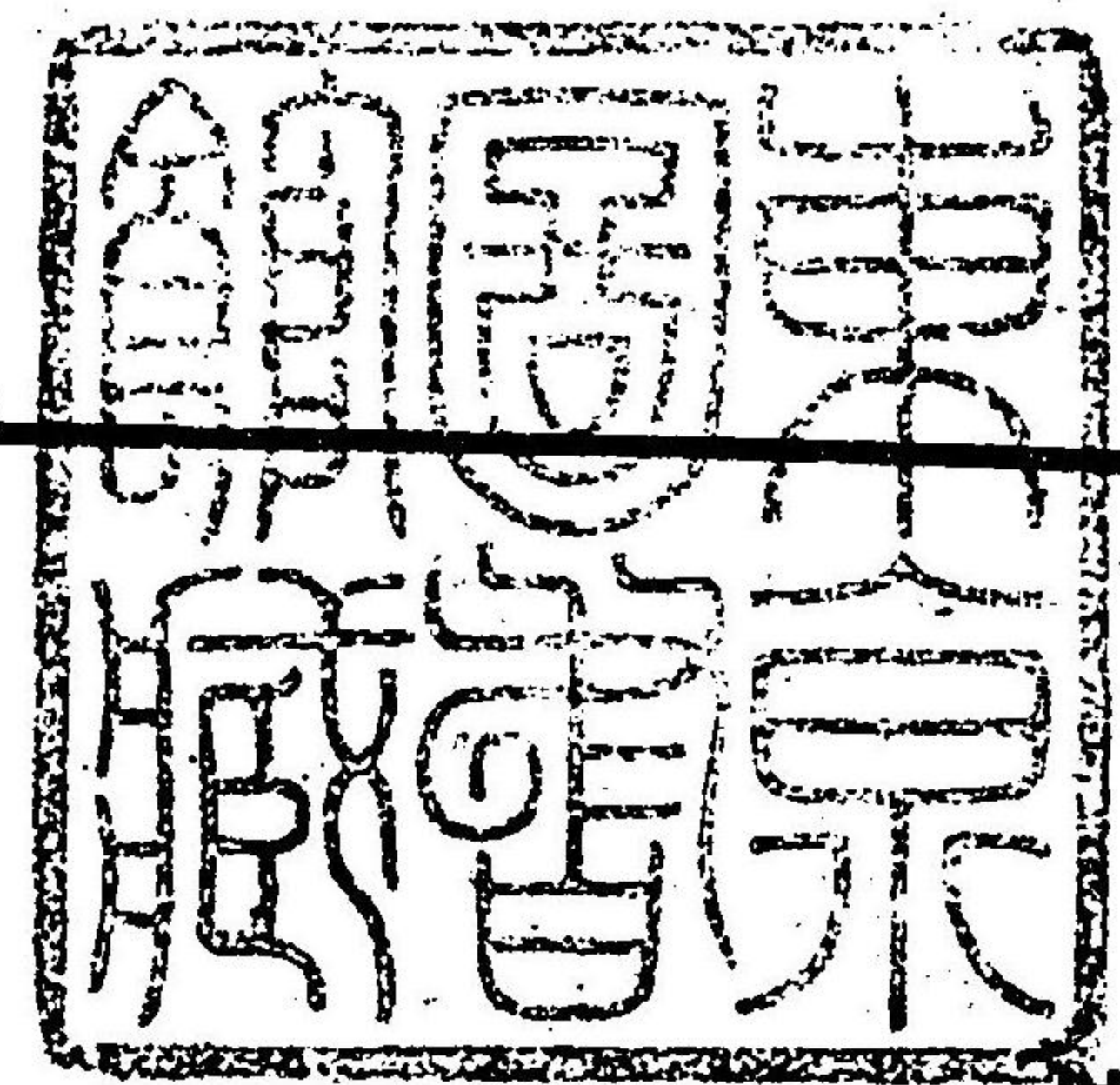
陸奥國誌

兵要地誌

大日本之部

内外軍事新聞局藏

No 9007



兵要地誌 大日本之部卷之三十三 目錄

陸奥國誌



水論

水經ノ區劃
太平洋ノ水經
内海ノ水經

一	二	二	三	五	五	六	六	十
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



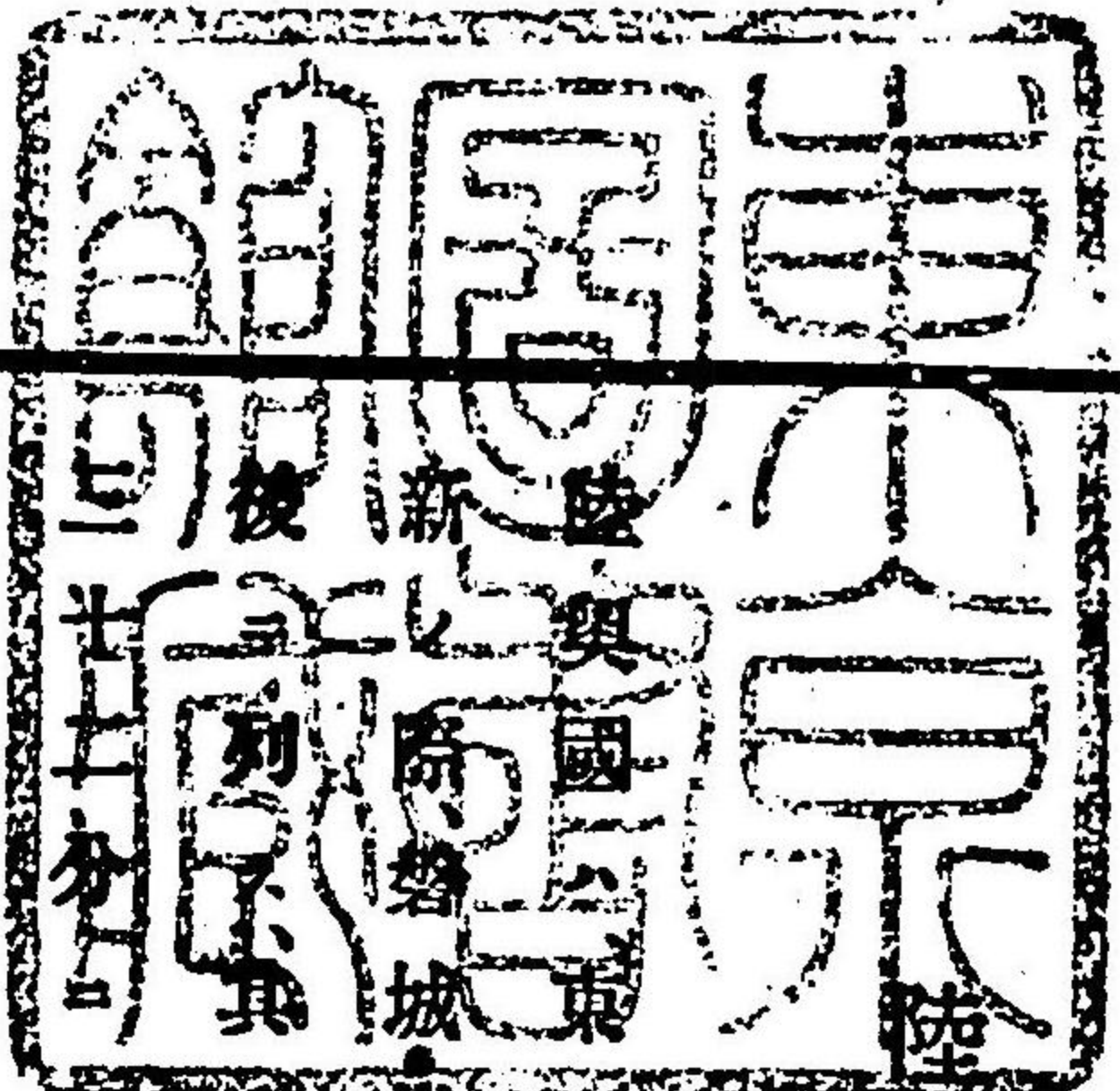
兵要地誌 大日本之部 陸奥國誌

日本海ノ水經	十四丁
岩木河ノ水路	十四丁
岩木河ノ右朝流	十五丁
岩木河ノ左朝流	十七丁
交通路	十八丁
沿革零史	二十三丁

兵要地誌 大日本之部卷之三十三

陸軍教授 三木信近 纂述

陸奥國誌 總論



陸奥國ハ東山道ノ北端ニシテ、東西北三面海ニ濱ス、維新ノ際、舊城ヲ代テ陸前陸中ヲ割テ五國ヲ置キ、本州ヲ最北緯三十九度五十九分ニ起テ、四十一度三十分ニ至リ、東經零度三分ヨリ、一度五十六分ニ亘ル、疆域、南一面羽後陸中ニ接シ、東ハ太平洋ニ面シ、西ハ日本海ニ臨ミ、北ハ東西二隅屈折シ相拱シテ海ヲ容レ、津輕峽ヲ隔テ北海道ニ對ス、廣袤、東西凡三十九里、南北凡四十里、之ヲ割シテ九郡トス、津輕郡ハ國ノ西部ヲ占

ム、今分ツテ東西南北中五郡トス、北郡ハ東北部ヲ領ス、今分ツテ上下二郡トス、三、戸郡ハ上北郡ノ南ニ接シ、二、戸郡ハ又其南ニシテ陸中ニ斗入ス、人口五十一萬六千四百八十八、明治十一年ノ地勢山脈中央ニ起リ、南走シテ東西兩地ニ分ツ、東地ハ本南部領ト稱シ、南陸中ニ犬牙錯入シ、北半島ヲ鈎出シ、頭西ニ向フ、西北ハ本津輕領ト稱シ、南羽後ニ接シ、西北共ニ海ニ枕シ、又餘地ヲ衍出ス、兩地ノ間、南ハ陸中ノ角地ヲ銜シ、北ハ大瀨ヲ受ケ、其間甚狹シ、東地ハ曠野相接シ不毛ノ地多シ、西地ハ土壤稍肥フ、民耕種ヲ力メ、蠶漁ヲ兼ヌ、氣候極暑九十度、極寒十七度

物産ノ主ナル者 鑛物ハ銀、鉛、花崗石、硫黃、植物ハ米、大

豆、薯、藷、藍、烟草、百合、狗脊、杉、檜、昆布、鹿角菜、動物ハ牛、馬、雞、鯉、鮒、鱒、海扇貝、製造物ハ綿絲、紬、縮緬、殼塗漆器、漆、晒蠟、竹細工、製造食物ハ山慈姑粉、蕨粉、乾鰯等ナリ

山論

山脈、州ノ中央ニ起リ四脈ヲ支出ス、一ハ西走シテ羽後境ヲ劃シ、一ハ初南下シテ次テ東ニ轉シ、又北上シテ陸中境ヲ劃シ、一ハ西北ニ向テ州内ヲ通走シ龍飛岬ニ盡キ、一ハ初東北ニ向ヒ其餘派北方ニ延伸シテ北郡ノ地峽トナリ、西折シ半島ニ入テ更ニ隆起ス、是ヲ以テ本州ノ山脈ヲ大別シテ四山脈トス、西南脈、東南脈、西北脈、東北脈ノ四山脈是ナリ

西南脈

田

西南脈ハ、初、西南ニ屈曲シテ陸中境ヲ劃シ、西ニ轉シテ羽後境ヲ劃ス、重嶺深谷殆ント人跡ヲ絶ツ、脈中泊嶽トリヤク面百サ、三十三尺、五サ最峻山トス、之ヲ踰フル山徑二條アルノミ、左ニ掲ク

第一 矢立峠ハ、碓關驛南津ヨリ白澤驛秋田北ニ出ツ、國道一四ノ通スル所ナリ、之ヲ米澤通ト云フ、東京ヨリ米澤ヲ經テ青森ニ達スル路線ナリ

第二 大間越ハ、一ニ能代越ト云フ、海濱ニ沿フ、大間越村四津ヨリ岩館村羽後山ニ出ツ、縣道ナリ

泊嶽ヨリ一岐脈ヲ分テ、北方ニ伸出シ、西津輕・中津輕ノ郡界ヲ劃ス、其尾端ヲ岩木山海面百六十拔一尺五千ト名ツク、巍然州内ニ秀拔シ、其形富士山ニ類スルヲ以テ、津輕富

岩木山

石原

白神嶽

士ト稱ス、其北麓ハ地勢下走シテ、遠ク曠野ニ連ナル、之ヲ建石原東西南北共ニト云フ、又泊嶽ノ西ニ颯起スル者ヲ白神嶽千面八拔七尺四トス、山勢深阻、人跡殆ント至ラス

東南脈

戸來山

種市ヶ嶽

東南脈ハ、十和田湖畔戸來山海面百三十三尺ニ起リ、南下シテ三戸郡・二戸郡ト、陸中鹿角郡トノ境ヲ劃シ、來瀨嶽・四角嶽ヲ領シ、矢、峯嶽ニ至テ東ニ轉シ、二戸郡ト陸中北岩手郡トノ境ヲ劃シ、七時雨山・中山等ノ諸山ヲ領シ、馬淵川ノ山口ヲ挾シテ、黒森山ニ連ナリ、又折レテ北ニ亘リ、折爪山ニ至テ、又東ニ轉シ、終ニ種市ヶ嶽ニ盡ク、種市ヶ嶽ハ、海濱ニ表立シ、群山ニ秀ツ、故ニ航海者望テ以テ目

標トス、北麓下走シ曠野アリ、之ヲ蒼前平ト云フ、此山中

ナ陸ヘテ陸中ニ通スル山徑數條アリ、左ニ揭ク

第一 柴峠ハ、鹿角通ト稱シ、深山幽谷ヲ通シ、關宿三ノ月

ヨリ大湯村陸中鹿角ニ出ツ、坂路羊腸積雪ノ際ハ行テ

絶ッ、縣道ナリ

第二 湯瀬越ハ、田山驛或ハ兄川驛二ノ月ヨリ湯瀬村中陸

鹿角ニ出ツ、岩手縣ニハ之ヲ鹿角街道ト稱シ、縣道ト

ス

第三 松尾越ハ、細野驛二ノ月ヨリ松尾驛岩手縣中北ニ出ツ、

縣道ナリ

第四 七時雨越ハ、荒屋驛二ノ月ヨリ寺田驛岩手縣中北ニ出

ツ、縣道ナリ、第三第四ノ二道ハ、相合シテ第二道ニ連

ナリ、岩手縣ヨリ津輕ニ達スル直路タリ

第五 中山峠ハ、小繋驛二ノ月ヨリ沼宮内驛岩手縣中北ニ出

ツ、國道線第六ナリ

第六 觀音林越ハ、福岡驛二ノ月ヨリ觀音林驛九陸中北ニ

出ツ、縣道ナリ

第七 大森越ハ、青森縣ニテハ之ヲ福岡通ト稱ス、市澤

驛三ノ月ヨリ觀音林驛九陸中北ニ出ツ、縣道ナリ、第六第

七ハ相連ナリ陸中北九戸郡ノ西北隅ヲ貫キ、八戸ヨ

リ直ニ福岡ニ往來スル捷路タリ、故ニ又八戸街道ノ

稱アリ

第八 田代越ハ、田代村三ノ月ヨリ輕米驛九陸中北ニ出ツ、

里道ナリ

第九 横濱道ハ、海岸ニ沿フ、八戸郡三月ヨリ久慈縣南九中

郡ニ至ル縣道ナリ

十和田嶽

此山脈ヨリ支出シテ州内ニ延伸スル岐山數條アリ今其最ナル者ヲ揭ク、十和田嶽ハ、戸來嶽ノ北ニ連リ十和田湖ノ東畔ニ兀立ス、其山脚數派ヲ爲シ、奥入瀬川ノ右朝流間ニ延伸シ、逶迤漸ク低ル、戸來嶽ノ山脚又數派ヲ分テ東走低下ス、其一派奥入瀬川ト五、戸川トテ分流シ、上北郡ト三戸郡トノ界ヲ劃ス、又四角嶽ヨリ東ニ支出スル者ハ、馬淵川ノ朝流熊原・安比ノ二川ヲ分隔シ、三二戸ノ郡界ヲ劃シ、東走シテ馬淵川邊ニ至リ盡ク、國道線其盡頭ヲ横過ス、之ヲ三戸峠又箕ヶ坂ト云フ、峻險ヲ以テ著ハル、四角嶽ヨリ東南ニ岐分スル者ハ、稻庭嶽ニ連

三月峠又
箕ヶ坂
稻庭嶽

栗木峠

名久井嶽

ル、山勢峭拔林木葱々卓立シテ群山ノ上ニ出ツ、此脈ハ中央水界線ニ屬シ、二水ヲ分流ス、西流スル者ハ、能代川トナリ日本海ニ注キ、東流スル者ハ、馬淵川ニ會シ太平洋ニ注ク、縣道之ヲ横過ス、之ヲ栗木峠ト云フ、又折爪山ヨリ北ニ支出スル者ハ、名久井嶽トス、兩嶽對峙シ馬淵川其麓ヲ繞ル

西北脈

十和田湖ノ周圍ハ大山群峙ス、之ヲ本州ノ山帶トス、其嶺嶽ヨリ西北ニ向ツテ支出セル者ハ、所謂ノ西北脈ニシテ山勢峻險ナラス、其方向西北ニ向ヒ、東津輕ト南津輕トノ郡界ヲ劃シ、漸ク内海ニ近ツキ梵珠平山高海抜百一尺五ヲ領シテ北津輕ト東津輕トノ郡界ヲ劃シ、更ニ

梵珠平山

大倉嶽

小泊崎

龍飛岬

赤倉嶽

進ンテ大倉嶽ニ海抜五百五十九尺二千ヲ領シ、遂ニ増川嶽ニ海抜百三十尺トナル、其山脚三又チ分テ海ニ盡ク、其右ニ出ツルチ鷹岬ト稱シ、左ニ出ツルチ小泊崎又觀音崎ト云フ、中央ニ在ル者ハ最近ク北出ス、之ヲ龍飛岬ト名ツク、北海道渡島ノ白神崎ト相對シテ海峡ヲ夾ム、其間、潮勢急激ニシテ舟行極メテ危険ナリ、之ヲ中ノ湖ト云フ、此山脈ヲ跨ルル山徑ニアリ、一チ王余ノ魚澤ト云フ舊道ナリ、險峻ニシテ僅ニ駄馬ヲ通スルノミ、一チ釋迦堂通トス新道ナリ馬車ヲ通スヘシ、釋迦堂驛輕津ヨリ新城驛輕津ニ通ス、今國道線トナス

東北脈

東北脈ハ、十和田湖北赤倉嶽千二百二十尺ニ起リ、八甲八甲嶽

烏帽子嶽

尻屋岬

大間岬

大間岬

田嶽二百八十尺五千ヲ領シ、東北ニ延テ上北郡ト東津輕郡トノ界ヲ限リ、烏帽子嶽千三百五十尺ニ連ナル、此山脈一旦盡テ國道線ヲ通シ、再ヒ岡陵ト爲リ北走シテ一帯ノ地峽ヲナシ其端ニ派ニ分ル、其一派ハ東北ニ向ツテ海中ニ突出シ、之ヲ尻屋岬ト稱ス、北海道渡島ノ惠山岬ト、相費シ、津輕海峡ノ東口ヲ爲ス、暗礁海中ニ亘ル一三三里、風浪險惡ニシテ舟行甚々危シ、岬ノ盡頭ニ燈臺ヲ置キ、以テ航海ノ望標トナス、發光不動白色ニシテ海上十九里ニ達ス、一派ハ西折シテ急ニ崛起シ半島ヲナス、其峻山ヲ恐山ト云フ、頂上ハ硫氣充滿シテ時々炎烟ヲ噴ク、山中湖アリ、周圍一里、其水東流シテ正津川トナル、其山脚ノ最北ニ斗出スル者ヲ大間岬ト稱シ、北海道函

九龍泊角

平館海峽

館灣ニ對シ凸凹ノ狀ヲ爲ス、又其山脚ノ西北ニ延出スル者ヲ、九龍泊角ト名ツク、東津輕郡ノ平館角ト相對シテ内海ノ口ヲ夾ム、其間六里ヲ隔ツ、之ヲ平館海峽ト云フ、一岐山アリ内海ニ突出シテ孤立シ二灣ヲ限ル、西ヲ青森灣トシ東ヲ田名部灣トス、西岸ニ小嶋アリ點在ス

水論

水經ノ區劃

右ニ舉グル四大山脈ヲ以テ、州内ヲ大別シテ三水經トス、太平洋ノ水經、内海ノ水經、日本海ノ水經是ナリ、左ニ各水經ニ屬スル諸川ヲ説叙セントス

太平洋ノ水經

太平洋ニ屬スル諸川大小數條アリ、左ニ之ヲ北ヨリ順

次ニ揚ク

第一 大畑川ハ恐山ノ陰ニ發シ、東流シテ大畑村約八口百九ニテ海ニ注ク、水路八里十八丁、大畑港ハ灣口東北ニ向ヒ、瀨、東西二丁南北二十間

第二 正津川ハ、恐山山中ノ湖ニ發シ、正津川村ニテ海ニ注ク、二流共ニ半島ニ在リ、是ヨリ南ニシテ、地峽ニ在テハ記スヘキ者ナシ

第三 天間館川ハ七戸川ノ二水ハ相合シテ小川原沼ニ流注ス、天間館川ハ一ニ坪川ト稱ス、源ヲ八幡嶽ノ陰ニ發シ、東流シテ坪驛ニ至リ、國道ヲ横截ス、橋アリ坪川橋

長二一ト云フ木橋ナリ、次ヲ榎林村ニ至テ中野川ヲ受ク、次ヲ七戸川ニ會ス、水路十里二十九丁、七戸川ハ源

坪

七月川

七戸

ヲ八幡嶽ノ陽ニ發シ、東流シテ七戸驛千九百約三ナ貫ク、市街般賑警察署・郡役所郡上北アリ、舊南部氏支封ノ治タリ、馬及大豆ヲ産スル甚盛ナリ、橋アリ七戸橋長二三四ト云フ、木橋ナリ、次テ覆林村ニ至リ坪川ニ合シテ一水トナリ、二、森村ニ至テ小川原沼ニ入ル、水路七里九丁、小川原沼ハ東西一里十八丁、南北四里十八丁、周圍十三里ニシテ其水海ニ通ス、其北ニ平沼・鷹架沼・尾駁沼アリ、皆小沼ニシテ海ニ通ス

十和田湖

第四 相坂川一ニ奧入瀬川ト名ツク、源ヲ十和田山中ノ十和田湖ニ發ス、此湖東西三里十八丁南北二里八丁、周圍十里陸中ニ跨ル、其水溢レテ銚子瀧トナル、即奧入瀬川ノ水源ナリ、其水山間ヲ東流シ、法量等ノ溪水ヲ

三本木

三本木

集メ、相坂村ト藤島驛トノ間ニ於テ、國道ヲ横截スル處ニ木橋ヲ架シ、御幸橋長三四十九間ト云フ、明治九年、奥州御巡幸ノ時成ルヲ以テナリ、相坂村ノ北ニ三本木驛アリ、原中ノ小市街ナリ、岐路ヲ分テ海濱百石村ニ通ス、此邊古ハ凡テ曠野ニ屬シ、三本木平東四八里南三里ト云フ、今ヲ距ル三十年前マテ頗ル空荒ナリシカ、爾來漸ク開墾セリト云フ、次テ百石村ニ至リ海ニ入ル、水路十六里十三丁、濶七十間

五戸

第五 五戸川ハ、源ヲ戸來嶽ノ東溪ニ發シ、東流シテ五戸驛四千口約ヲ過ク、國道ノ驛次ナリ、橋アリ五戸橋長一十間幅三ト云フ、木橋ナリ、市街稍繁盛、岐路二條ヲ分テ、一ハ八戸ニ一ハ上市川村ヲ經テ下市川村ニ通ス、近傍ハ

海平

土地膏腴馬及大豆ヲ産ス頗ル饒カナリ、其東南ニ亘ル原野ヲ地蔵平東北四二里ト云フ、次テ下市川村ニ至リ、海ニ入ル

大豆城

第六 馬淵川ハ、此水經中最大ナル河流ニシテ、其濶域ハ三戸二戸二郡及陸中九戸郡ノ一部ヲ領シ、其二戸郡ハ地勢、此川ノ上谷ヲナシ別ニ一境域ヲ爲ス、是ヲ以テ此一郡ヲ岩手縣ニ屬ス、此川ハ源ヲ陸中九戸郡ニ發シ、上流カニ中陸國境山脈ノ幼處ヲ過キ、二戸郡冬都村ニ至ル、村家川ノ兩岸ニ跨ル、此村ヨリ陸中伊保内ニ通スル坂路アリ大豆喰坂ト名ク、行程四五里、四方峻山巖々トシテ聳ヘ、樹木繁茂シ山路狹隘、雨後ハ通スヘカラス、次テ姉帯村ヲ過ク、姉帯故館アリ、南部ノ族姉帯與次郎兼

根反村館

小梨川

戸

戸館址

政此ニ居リ、天正十九年九戸政實ト共ニ反シ九戸城ニ入り、弟兼信叔父兼貞ヲシテ留守セシム、官軍ノ先鋒、蒲生氏郷ノ裨將田丸具安攻撃シテ止マヌ城遂ニ陥ル、北根反村ニ根反館址アリ、根曾利彌左衛門此ニ居リ、九戸ノ亂ニ官軍姉帯城ヲ攻ムル最急ナリ、彌左衛門手兵ヲ卒ヒテ急テ救ハントス、途中田丸ノ兵ニ遇ヒ退テ城ヲ守ル、田丸ノ兵急ニ圍ミ遂ニ戰死シ城陥ル、次テ小梨川ヲ受シ、此川中山峠ヲ開ク國道線ノ通スル處ナリ、次テ一戸驛千人口約一ヲ過ク、國道ニ臨ミ二戸郡中稍繁華ノ地ナリ、橋アリ万代橋長三三三同三尺ト云フ、圮橋ナリ、館址アリ一戸館ト云フ、天正中南部氏ノ臣北信愛ノ次男秀愛ヲ以テ城代トナス、天正十九年九戸政實反シ、兵ヲ發

シテ此城ヲ夜襲ス、秀愛拒戦シテ之ヲ却ケ急テ南部信直當時三戸ニ在リニ告ク、苦米、淨法寺ノ二城モ亦固ク守テ挽マヌ、信直兵ヲ卒ヒ來テ城兵ヲ援シ、政實軍ヲ波打嶺ニ出シ險ニ據リ相持ス、此際信直ノ臣ニ走テ政實ニ應スル者アリテ三戸ノ交通絶ヘ、信直ノ軍大ニ屈シ、政實ノ兵勢日ニ熾ナリ、是ニ於テ援ヲ秀吉ニ乞フ、秀吉乃、蒲生氏郷伊達政宗ヲ先鋒トシ、中納言秀次ヲ元帥トナシ、徳川家康副將ヲリ、其他奥羽ノ兵ヲ合セ十萬ヲ繼テ發ス、信直ハ一戸ニ在テ師ノ至ルヲ候ツ、八月蒲生氏郷ノ前隊姉帯根反ノ二城ヲ拔シ、尋テ諸軍進ミ政實ヲ福岡ニ合圍スト云フ、次テ末、松山ノ麓ヲ繞ル、末、松山一ニ波打嶺ト云フ國道ノ通スル處ナリ、山腹ニ波濤ノ痕アリ、蓋シ

末松山一
波打嶺

地層断面ノ顯ル、モノナリ、又其崖ヲ掘崩セハ數品ノ貝殻ヲ得ト地質學ニ所謂ノ礮石是レナリ、此坂路ヲ下レハ福岡驛千二百一ナリ、此地國道ニ臨ミ支線ヲ東西ニ岐分ス、市街殷賑、警察署、郡役所二戸郡一ニ圍テ管アリ、古城址アリ九戸城ト云フ、鳥越村ニ屬ス、西川ニ臨ミ餘ハ連山巖々トシテ高崖千尺頗ル險要タリ、相傳フ古時安倍貞任ノ族白鳥三郎高任ノ居城地ナリト、後九戸氏修造シテ之ニ居ル、天正十九年政實本城ニ據リ叛ス、同年八月官軍ノ將蒲生氏郷淺野長政堀尾吉晴等ノ數將、數萬ノ兵ヲ以テ政實ヲ本城ニ攻ム、政實險ニ據テ能ク拒キ月ヲ踰ヘテ下ス能ハス、遂ニ僧長光寺ノ爲メ歎カレテ、官軍ニ降り城陷フル、後、南部信直之ニ治シ慶長四年

鳥越村百
城址

安比川

新町

浄法寺村

三戸郡

熊原川

更ニ盛岡ニ城キ徒ルト云フ、次テ似鳥村ニ至リ安比川
 ヲ受ク、此川二戸郡ノ西南隅ニ發シテ、東北ニ流レ細野
 驛ヲ過ク、盛岡ヨリ鹿角郡ニ通スル縣道ノ驛次ナリ、次
 テ新町驛ヲ過ク、又盛岡ヨリ七時雨峠ヲ經テ鹿角郡ニ
 通スル縣道ノ驛路ナリ、橋アリ安比川橋長二十四間三
尺四寸ト
 云フ圮橋ナリ、次テ梨木峠ヨリ發スル溪流ヲ合シ、曲流
 ヲテ浄法寺村ヲ過ク、福岡ヨリ鹿角郡ニ通スル驛路ニ
 當ル、故館アリ浄法寺修理ノ居城ナリト云フ、九戸ノ亂
 ニ、羽州ノ軍此道ヨリ進ムト云フ、二水會スル後又國道
 線ヲ横截ス、橋アリ長瀬橋長十四間
三寸ト云フ圮橋ナリ、
 次テ金田驛千一口約一
テ過キ、釜澤村ニ至テ二戸郡ヲ去
 リ三戸郡ニ入リ三戸驛三人口約
二千口ニ至テ熊原川ヲ受ク、熊

小國平

古城址

八戸

原川ハ源ヲ來滿嶽ノ東南溪ニ發シ、東流シテ鹿角通ノ
 山徑ヲ開キ、左右ノ群山ヨリ出ヅル溪水ヲ集メ、水勢漸
 シ増シ田子村ヲ過ク、北ニ高原アリ小國平北東十三里南
北四十三里ト云フ、次テ三戸市街ヲ貫流ス、橋アリ黃金橋長三三間
三寸ト云フ、三戸ハ山間ノ繁邑ニシテ馬淵川始メテ舟筏ヲ
 放ツノ地トス、古城址アリ梅内村ニ屬ス、東ハ馬淵川西
 ハ熊原川ニ臨ミ南ハ山ヲ負フ、山下ニ箕坂ト稱スル坂
 路アリ、崎嶇羊腸頗ル險惡トス、建久三年南都光行、甲州
 ヲリ移リ築ク所ニシテ子孫世々之ニ居ル、天正十九年
 信直ニ至リ、福岡ニ徙リ城代ヲ置テ成ヲムト云フ、城
 址猶存ス、次テ小向村ニ至リ猿邊川ヲ納レ、名久井嶽ノ
 麓ヲ繞リテ、東ニ流レ花崎村ニ至リ淺水川ヲ受ケ、八戸

千人口約九ノ北ヲ過シ、八戸ハ元南部氏支封ノ地ニシテ
 舊城アリ、今猶繁盛ノ區ナリ、東ハ湊・鮫ヲ扼シ運輸ノ便
 アリ、道路四通、市街驕次、人烟稠密、百貨輻湊、學校・病院・
 治安裁判所・警察署・郡役所三戸電信分局等アリ、橋アリ
 大橋長七十五ト云フ木橋ナリ、河口ニ至リ新井田川ト
 相會シ海ニ入ル、水路約二十五里、潤百間、舟楫ヲ通スル
 九里、新井田川ハ源ヲ陸中九戸郡ニ發シ、陸中ニ在テハ
 之ヲ輕米川ト稱ス、上流陸中縣北流テ本州ニ來リ新
 井田村ニ至テ縣道ヲ横截ス、橋アリ新井田橋長三十三
 ト云フ木橋ナリ、次テ湊ノ市街ヲ貫流ス、橋アリ湊橋長
三十九間幅ト云フ、湊ハ八戸ヲ距ル一里ニシテ近シ、舟
 楫ノ利アリ、次テ馬淵川ト共ニ海ニ入ル、水路州内ヲ流

新井田川

ル六里二十二丁、上流ヲ合スレハ十四里アリ、湊ノ東ニ
 鮫港アリ、東洋ノ港ナリ、東西十三丁、南北十丁、深十五
 尺、西北ニ向フ、南北往來ノ商船碇泊シテ港口常ニ帳檣ヲ
 見ル、其繁多青森ニ亞シ、其海角ハ北郡ノ尻屋岬ト遙ニ
 相望ム、之ヲ鮫角ト云フ

内海ノ水經

内海ノ水經ハ、山脈海岸ニ接近スルヲ以テ、之ニ屬スル
 諸川ハ皆甚短カシ、左ニ其稍大ナル者ヲ枚舉ス

第一 川内川ハ、源ヲ川内村ノ山中ニ發シ、溪澗ノ諸流
 ナ合セ、南流シテ川内村ニ至リ海ニ入ル、水路約七里、潤
 三十間、川内ハ一ニ安渡ト云フ、内海ノ小港ニシテ碇泊
 ニ便ナリ、港東西十八丁、南北十六丁、深二十八尺、東南ニ

鮫ノ港

内海ノ水經

川内港

向フ

田名部

第二 田名部川ハ、源ヲ砂子又村ノ山中ニ發シテ、西南流シ、田名部千人口約三三ヲ經テ海ニ入ル、水路約七里、濶五十間、田名部ハ、一ニ斗南ト云フ、半島中ノ小都會ニシテ、警察署・郡役所郡下北アリ、戊辰ノ役後、保科氏ヲ此地ニ移シ、其祀ヲ存セシムト、河流舟楫ヲ通シ、大湊トノ運輸ニ便シ、檜杉ノ良材ヲ産ス

野邊地

第三 野邊地川ハ、源ヲ烏帽子嶽ニ發シ、初、東北ニ向ヒ、烏帽子嶽ノ山脚ヲ繞リテ西北ニ瀦洄シ、野邊地人口約三千二百ニ至リ海ニ入ル、水路約四里、野邊地ハ、北海ニ運漕スル船舶、常ニ出入シテ青森ニ亞ケル良港ナリ、東西十丁、南北六丁、深七仞北ニ向フ、此地國道ノ驛次ニシテ、別ニ

田名部街

野内

筒井村

青森

一路ヲ岐分シ、内海ノ岸ニ沿フテ田名部ニ通ス、之ヲ田名部街道ト云フ、縣道ナリ、國道ノ横截スル處ニ二橋ヲ架シ、一橋長三十三間、二橋長三十七間ト云フ、共ニ木橋ナリ、第四 野内川ハ、源ヲ滝ノ澤村ノ山中ニ發シ、野内驛ニ至テ海ニ入ル、水路約二里十丁、野内ハ、國道ノ驛次ニシテ橋アリ、清水橋長三十七間ト云フ、木橋ナリ、第五 堤川一ニ荒川ト云フ、源ヲ八甲田嶽ニ發シ、北流シテ浦町村ニ至リ、駒込川ヲ合ス、二流間筒井村ニ營所アリ、第五聯隊ヲ駐在セシム、青森ヲ距ル一里ニ瀦タス、次テ青森堤町ニ至リ海ニ入ル、水路約四里十八丁、堤町ニ橋アリ、堤橋長三十四間ト云フ、木橋ナリ、青森ハ、著名ナル港ニシテ、青森縣廳二月四日ヲ除キ本ノ

在ル處ナリ、戶數約二千二百、人口約一萬二千四百、市街
ヲ四條ニ分ツ、治安裁判所・師範學校・病院・電信分局・警察
署・郡役所・輕郡津等アリ、此地箱館ヲ距ルヘ海上三十里、常
ニ汽船二艘ヲ備ヘ、隔日ヲ以テ相往來ス、又海底電信線
アリ北海道ニ通ス、港灣東西二十三丁南北六丁、深八尺
北ニ向フ、浮標ヲ設ケ竿燈ヲ建テ以テ航路ヲ示ス、其燈
光ハ不動赤色ニシテ、海上六里ニ達ス、港内諸國ノ船舶
常ニ輻湊シ、市街頗ル殷賑ナリ

第六 蟹田川ハ、東流シテ、蟹田村ニテ海ニ入ル、水路約
二里十八丁

第七 今別川ハ、北流シ今別村ニテ海ニ入ル、水路約二
里十八丁

三麻港

今別川ノ西ニ三麻港アリ、北海道ニ航スヘキ要津ナリ、
港灣東西一里二丁、南北十五丁、深十尺北ニ向フ、北海道
ノ松前ニ至ル、十里十八丁、箱館ニ至ル十九里、青森ヨリ
三麻ニ至ル、海岸ニ油川・蓬田・蟹田・平館等ノ村里アリ相
連續ス、之ヲ外濱ト云フ縣道ナリ

日本海ノ水經

日本海ニ屬スル河流亦大小一ナラス、岩木河最、大ナリ、
其流域ハ此水經ノ大抵ヲ占メ、北南中津輕三郡及西津
輕郡ノ北一部ヲ領ス、其地北ニ向ツテ敞開シ、沿河一帶
平坦膏腴開墾尤至レリ、左ニ其本流及朝流ヲ別記ス

岩木河ノ水路

岩木河ハ、源ヲ泊嶽ニ發シ、岩木山ヨリ發スル溪水ヲ聚

弘前

メ、初、東ニ流レテ相馬川ヲ受ケ、漸ク北ニ向ヒ、悪戸村ニ至テ相内川ヲ容レ、漸ク大河トナリ、弘前ニ入リ、約三万ノ西ヲ過ク、弘前ハ、元、津輕氏世々ノ居城ニシテ、市街頗ル廣シ、始審裁判所、學校、病院、警察署、郡役所、輕郡等アリ、其地、國道線ニ臨ミ、支線ヲ分テ諸方ニ通シ、物産多ク、殼塗漆器、其名殊ニ顯ル、舊城アリ、天正十八年、南部氏大浦右京亮爲信、兵ヲ起シ、波岡城ヲ攻ム、城將南右兵衛防ク能ハス、城ヲ棄テ、走ル、爲信遂ニ津輕ノ地ヲ有シ、本城ヲ築キ之ニ居ル、南部信直之ヲ擊ツテ克タス、爲信潛カニ京師ニ往キ、秀吉ニ達スルヲ得、是ヨリ始メテ守、牧ニ列シ、津輕氏ト稱ス、爲信九世、寧親ニ至リ、文化年中、俄羅斯北地ヲ侵掠ス、寧親兵ヲ遣リ、擊ツテ之ヲ退シ、功ヲ以テ

弘前

平川

板屋野木村津渡

五所川原津渡

封ヲ増ス、明治維新州内ニ五藩ヲ置シ、其一ナリ、既ニテ改テ縣トシ、更ニ五縣ヲ合併シテ、弘前縣ヲ置キ、後改テ青森ト稱シ、治所ヲ青森ニ移ス、次テ藤崎村ニ至リ、平川ヲ受ケ、南中津輕ノ郡界ヲ劃シ、三世寺村ヲ過シ、此地始メテ舟筏ヲ放ツノ處トス、次テ中西津輕ト北津輕トノ郡界ヲ劃シ、板屋野木村ヲ過ク、津渡アリ、河幅九十間、次テ五所川原ノ西ヲ過ク、津渡アリ、河幅九十間、此地道路四達、市街頗ル繁盛、治安裁判所、警察署、郡役所、輕郡學校、病院等アリ、次テ藻川村ニ至リ、十川ヲ容ル、津渡アリ、河幅九十間、河口數派ニ分レ、十三湖ニ注ク、水路約二十二里、舟楫ヲ通スル十里餘、此水ノ貫流スル地ハ、廣野綿亘シ、其澁沃ヲ資リ、田土頗ル肥フ、十三湖ハ、東西約一里

十三村

南北約三里、周回六里、冬時ハ堅水湖面ヲ固封シ、車馬其上ヲ通行スヘシ、十三村ニ漏口アリ、其水海ニ通ス、漏口幅二百八十間、津渡アリ、港アリ、十三湖ト云フ、東西二丁南北十四丁、深二仍北ニ向フ

岩水河ノ右朝流

右朝流ハ、大小數條アリ、左ニ揭ク

第一 相馬川ハ、源ヲ朝影山ニ發シ、相馬村ヲ過キテ岩木川ニ合ス、水路約四里

第二 平川ハ、源ヲ矢立峠ニ發シ、秋田街道ヲ開ク、國道線ノ通スル處ナリ、北流シテ碓關驛ヲ過キ、羽後境山脈ノ溪谷ヨリ發スル諸水ヲ集メ、堀越村ニ至テ大和澤川ヲ受ク、此川東北ニ流レ、小栗山村ニテ國道ヲ横截ス、橋

碓關驛

瀨石川

黒石

藤崎驛

アリ、大和澤橋、間幅三十五ト云フ、足橋ナリ、二水相會シテ南中津輕ノ郡界ヲ劃シ、境關村ヲ過キ、藤崎村ニ至リ、瀨石川ヲ受ク、淺瀨石川ハ源ヲ櫛ヶ峯、蘆唐山ニ發シ、西流シテ黒石、千五百約六ヲ過ク、地勢高燥、水流清駛、近傍ノ田畝皆肥沃ニシテ、産スル所ノ米ハ津輕第一ト稱ス、市街人家稠密、警察署、郡役所、南津輕郡等アリ、寛永年中、津輕信牧ノ二男信英ヲ封シ、之ニ居ラシム、子孫相承テ之ニ治ス、明治維新、藩ヲ廢シ、弘前縣ニ合併ス、此川水源ヨリ合流ニ至ル、水路十里、二水相會シテ國道ヲ横截ス、橋アリ、藤崎驛ニ在リ、藤崎橋、間幅三十八間、ト云フ、木橋ナリ、次テ岩木河ニ合ス、水路約七里

第三 十川ハ、源ヲ十川村ノ山中ニ發シテ、北流シ、増館

日本部

十六

浪岡川

浪岡驛

村ニ至テ國道ヲ横截ス、橋アリ十川橋長十二間ト云フ
 木橋ナリ、次テ北津經郡ニ入り、館越村ニテ浪岡川ヲ受
 シ、浪岡川ハ源ヲ王余魚澤村都谷森ニ發シテ、西北ニ流
 レ、浪岡驛ニ至リ國道ヲ横截ス、橋アリ浪岡橋長二十間
 ト云フ木橋ナリ、浪岡ハ青森弘前・黒石ノ三道ニ當ル要
 地ニシテ、行旅輻湊シ稍殷賑ナリ、古城址アリ、往昔源顯
 家ノ裔此地ニ據リ波岡氏ト云フ、後南部氏ノ爲メニ地
 ナ創ラレ、天正年中南部信直其弟政信ヲシテ津經ノ郡
 代ト爲シ、本城ニ居ラシメ、大光寺左衛門・大浦爲信後津經ト
 稱ノ二人ヲシテ之ヲ補佐セシム、二人事ヲ以テ隙アリ、
 爲信大光寺ヲ政信ニ讓ス、政信之ヲ信ヲ爲信ヲシテ兵
 ナ發シ、討タシム克タス、南部信直之ヲ聞キ兵ヲ發セシ

トス、大光寺出羽ニ走ル、政信死シ信直南右兵衛ヲシテ
 代リ守ラシム、天正十八年、大浦爲信援兵ヲ秋田ニ乞ヒ、
 兵ヲ起シテ本城ヲ攻ム、南右兵衛急テ信直ニ告ク、信直
 赴援セントシテ果サス、城遂ニ陷ル、是ヨリ津經ノ地、全
 シ爲信ノ有ト爲ル、浪岡川水路約四里ニシテ、十川ニ入
 ル、二水會スル後、北津經郡内ヲ北流シ、長富村ニ至テ飯
 詰川ヲ併シ、藻川村ニ至テ岩木河ニ入ル、水路約十三里
 第四 金木川ハ、源ヲ大倉山ニ發シ、金木村ヲ過キ岩田
 村ニ至リ岩木河ニ入ル、水路約五里十八丁

岩木河ノ左朝流

左朝流ハ唯一川アルノミ、直ニ十三湖ニ入ル、之ヲ山田
 川ト云フ、上流數條アリ、皆源ヲ岩木山ノ北麓ニ發シ、相

木造驛

平行シテ北流シ、其一水木造驛ヲ灌漑ス、其地道路四通、即北ハ十三村ニ東ハ五所川原ニ南ハ弘前ニ西ハ鯨澤ニ達ス、市街稍殷賑警察署アリ、諸水相會スルニ從ヒ、漸ク廣ク、菰槌村ヲ過ク、是ヨリ下流運漕ノ便アリ、次テ流氷浸汎シテ沼澤トナル、之ヲ田光沼ト名ツク、次テ富港村ニ至リ湖ニ注ク、水路約六里舟楫ヲ通スル四里十三湖ノ漏口ヨリ、南中村川ノ河口ニ至ル海岸一帯ハ、沙漠ニシテ滿眸白砂水ナク、又一ノ村落ナシ、之ヲ七里濱ト云フ

日本海ノ水經ニ屬スル、直ニ海ニ注ク小流數條アリ、皆岩木山ノ西ニ在リ、左ニ其稍大ナル者ヲ枚舉ス

第一 中村川ハ、源ヲ岩木山ニ發シ、北流シテ中村ヲ通

七里濱

鯨澤村

過シ、舞戸村ニ至リ海ニ入ル、水路約七里、河口ノ左岸ニ鯨澤村アリ、泊舟ノ地タリ、港灣東西十八丁南北十五丁、深ク五仞北ニ向フ、西濱地方ノ繁邑ニシテ、警察署・郡役所・輕郡等アリ

第二 赤石川ハ、源ヲ泊嶽ノ北溪ニ發シ、北流シテ赤石村ニ至リ海ニ入ル、水路約四里

第三 追長瀬川ハ、源ヲ泊嶽ノ西溪ニ發シ、西流シテ追長瀬村ニ至リ海ニ入ル、水路約六里

第四 笹内川ハ、源ヲ白神山ニ發シ、初北流シ次テ西ニ轉シ、岩崎村ニ至リ海ニ入ル、水路約四里

海岸ニ沿フテ一條ノ道路アリ、鯨澤ヨリ羽後ノ能代ニ通ス、之ヲ能代通ト云フ、此邊總テ岩木山白神山ノ山脚

支出スルヲ以テ、海岸嶺巖崎嶇道路一昂一低頗ル險惡ナリ、加之此諸川ハ皆源近キヲ以テ、平時ハ水極メテ寡シト雖モ、大雨ノ時ハ、忽チ激流奔湍ヲ爲シ行ヲ絶ツ、途中深浦ハ稍繁村ナリ、鯨澤ヲ距ル九里ニ在リ、眺望佳絶最泊舟ニ便ナリ、港灣東西五丁、南北四丁深五仞、北ニ向

交通路

國道

東京街道 青森 沼宮内 岩手 陸奥 中国 路北 岩野
 野内 三十四里 三十九里 四十九里 四十五里
 坪 三十一里 三十一里 三十一里 三十一里
 藤島 三十三里 三十三里 三十三里 三十三里
 七戸 三十二里 三十二里 三十二里 三十二里
 傳法寺 三十二里 三十二里 三十二里 三十二里

戸 二里 十里 四十里 八丁
 市 二里 十里 四十里 八丁
 四里 十三里 四十四里 四十四里
 陸中 沼宮内 合四十二里 四丁二十一間
 國道 一四號

青森 三十一里 三十三里 三十三里 三十三里
 浪岡 二里 二里 二里 二里
 碓氷 一里 一里 一里 一里
 米澤街道 田青 郡森 白 澤 秋 田 縣 羽 後 國 北 秋
 新城 丁二里 三十三里 三十三里 三十三里
 藤崎 二里 二里 二里 二里
 秋田縣境合十九里 十一丁二十七

縣道

松前街道 三青 森 郡 二 至 東 津 輕 郡
 油川 一三 丁里 九二 間十
 蓬田 三二 十里 二二 間丁

田十二里四丁三	野田六丁十	平館三里十	同十六尺丁	今別丁二里十九
三五尺間	三底合十七里十五丁	能代街道	羽中後津國郡山郡前岩館	二秋田
弘前五二丁里	高杉七三丁里	十腰内二丁里	浮田二丁里	十
藤澤里一	赤石十一里九丁	關丁十一	金井澤十二里一丁	三
八里	十	真瀬二丁	廣戸二丁	三
八丁	岩崎十一里九丁	追真瀬四丁	廣戸二丁	三
十四丁	四	松神丁三	黒崎丁三	十
同	上	北津輕郡大澤	同	四十五間
大釋迦丁一	五里十二	同	同	五里
木造丁一	五里十二	同	同	五里
同十五	同十五	同	同	同十五

八丁四十九間	青森ヨリ	南津輕郡	藤崎驛	ニ至ル分線
青森二里七丁	濱田三	同	同	同
十川三	同	同	同	同
丁五十二間五尺	黒石十二里九	同	同	同
五所川原丁三	同	同	同	同
内三	小泊合十二里十二	同	同	同
濱岡九	同	同	同	同
同四尺丁	同	同	同	同
同	同	同	同	同

路

黒石三十九町 尾上一里二十町 柏木丁五里三町十一

藏館合四里十六丁五十間

中津輕郡弘前驛ヨリ南津輕郡尾上ニ

達スル分線

弘前四十二里三町十三丁

尾上

十三街道 輕四郡津輕三郡木造 達スル分線

木造四里六丁

林里三 牛瀨四里五十町七丁 十三合七里

二十四丁二十五間

佐井街道 北上郡北野驛邊ニ地至驛ル分線下

野邊地五里三町五丁

有戸丁四里六町九 横濱五里三町十

中野澤丁三十四里十二町九

田名部丁四里十三町九 關根十二里四町二

大畑丁五里十三町三 下風呂二里二十町一丁 易國間二里
十二町四 大間八丁里 奥戸四丁里 佐井合二十八里三十
丁十五間

田名部丁四里十七町七 鷹野澤街道 下北郡野田驛邊ニ至驛ル分線全
川内十二町八丁 檜川村四里九町十 城澤三里六十町四丁
綱崎村二里五町五丁 小澤村二里八町八 宿野部村四里十七町七
三十三丁四十八間

東沿海路 三田郡八戸驛ニ至ル分線北
八戸五里三町二 下市川八里十町十 岡三澤十一里三
根井十二里五町二 倉内一里 平沼二里十町十 尾駱七里十
出
戸六里十丁 泊九丁里十 白糠十二里八丁二 小田野澤三二里十

砂子又十九里丁二 青平三二里 田名都合二十八里十八

丁

綾街道三戸郡二五戸分

五戸丁二里四十九 七崎十三里七丁 八戸丁三十 小中野里一

三 綾合七里二十三丁十八間

同別街道三戸郡三戸至分

三戸丁二里四十三丁 劍吉二里六丁 苦米地二里十四丁

柳引十九里丁二 八戸合七里十六丁五十五間

鹿角通角三戸郡大瀧三戸至分

三戸丁二里四十二間 田子三間 關十五里丁三 陸中大湯合

十一里二十七丁五十二間

經米街道中二戸郡北九戸郡觀音林岩手達

續ル路

福岡丁二里四十二 陸中觀音林

福岡通三戸郡觀音林二里中

八戸丁六里五十三間三 陸中觀音林

久慈街道中三戸郡北九戸郡大野岩手達

續ル路

八戸丁八里五十三間四 陸中大野

上北郡三本木驛ヨリ同郡百石驛ニ達

スル分線

三本木三 大落瀬三十五間六丁 百石合五里十六丁三

十五間

上北郡野邊地驛ヨリ同郡倉内驛ニ達

野邊地 丁五里五三間十一

スル分線
倉内

弘前 丁三十一里二十間三丁

百澤街道 郡中津輕村ニ弘前ニ分
百澤 青森營所街道所ニ森ヨリ青森分線

青森 丁三十一里三十四間五丁四

青森營所 南津輕郡藤崎驛ヨリ北津輕郡五所川

藤崎 丁一十一里五十四間一

原驛ニ連スル分線
板屋野木 五十一里三十四間五尺丁 鶴田 三十一里

七三 丁四十二里五十四間一

五所川原合五里十八丁五十五間
中津輕郡弘前驛ヨリ西津輕郡木造驛

ニ連スル分線

弘前 丁三十一里五十四間一尺
七丁十六間一尺

種市 三十三里四十二間八尺丁 木造合七里

鹿角街道 郡中津輕村ニ
鹿角 郡中津輕村ニ

陸中 松尾 丁三十一里二十二間二
中湯瀨合十里十二間

本州 細野 四丁里十 兄川 里二 陸

同別街道 郡中津輕村ニ
同別街道 郡中津輕村ニ

陸中 寺田 丁四十二里二十一丁
十五四丁四 陸中湯瀨合十里十九丁五十五間

本州 新町 丁四十二里八十九間 田山 里三

沿革零史

磐城岩代陸前陸中陸奥五州、本陸奥一州ヲリ、文治五年、

源頼朝藤原泰衡ヲ誅ス、其將南部光行從テ功アリ、乃
 奥州糠部ノ五郡ヲ賜フ、五郡ハ糠部即今ノ三月津輕、建
 久三年、光行初テ三戸郡ニ入リ、三戸ニ城キ、子孫世々之
 ニ居ル、光行十二世ノ孫守行、應永中足利持氏ニ從テ功
 アリ、陸奥國司ニ補ス、時ニ北畠顯家ノ裔、津輕郡浪岡ニ
 據リ、浪岡氏ト稱ス、天文ノ初ニ至リ、南部俊信其地ヲ取
 ラント欲シ、弟高信ヲシテ之ヲ伐タシメ、高信ヲ津輕ノ
 守護トシ、石川城ニ居ラシム、天正中南部信直、其弟政信
 ナ津輕ノ郡代ト爲シ、浪岡城ニ置キ、津輕爲信大光寺左
 衛門二人ヲシテ之カ補佐トス、二人相爭ヒ、大光寺羽州
 ニ走ル、天正十七年、政信暴死シ、信直・南右兵衛ヲシテ、政
 信ニ代ラシム、十八年、津輕爲信浪岡城ヲ攻メテ、南右兵

衛ヲ走ラシ、遂ニ津輕ノ地ヲ有シテ弘前ニ城キ之ニ居
 リ、潛ニ款ヲ秀吉ニ送ル、是ヨリ始テ守牧ニ列シ、子孫世
 ヲ弘前ニ治ス、十九年南部ノ支族九戸政實福岡城ニ據
 リ、叛ス、南部信直之ヲ伐テ克ツス、秀吉秀次ヲ遣テ之ヲ
 平ケ、信直ヲ福岡城ニ移ス、慶長二年、信直城ヲ盛岡陸奥中
 郡ニ築キ之ニ徙居ス、寛永中台命ニ依リ、信直ノ孫重信
 二男政信ニ八戸ヲ與ヒ、其支封トシ、又津輕爲信ノ子信
 牧二男信英ニ黒石ヲ與ヒ、其支封トス、文政年中南部利
 敬幕府ニ請フテ、七戸ヲ分割シ、其支封トス、凡、四藩、明治
 紀元田名部ニ、松平容保ノ子容大ヲ封シ、南藩ト稱ス、
 既ニシテ皆改メテ縣トシ、更ニ合併シテ弘前縣ト置キ、
 改テ青森ト稱シ、縣廳ヲ青森ニ定ム、而シテ全國第二軍

管仙臺鎮臺第四師管ノ管域ニ屬シ、第四旅團本部ヲ青
森ニ置シ

分十二 分十三 分十四 分十五 度一東 分十二 分十三 分十四 分十五 度二東

嶋 渡

津

輕

峽

大

平

灣 與 陸

洋

十三湖

北

津

輕

郡

東

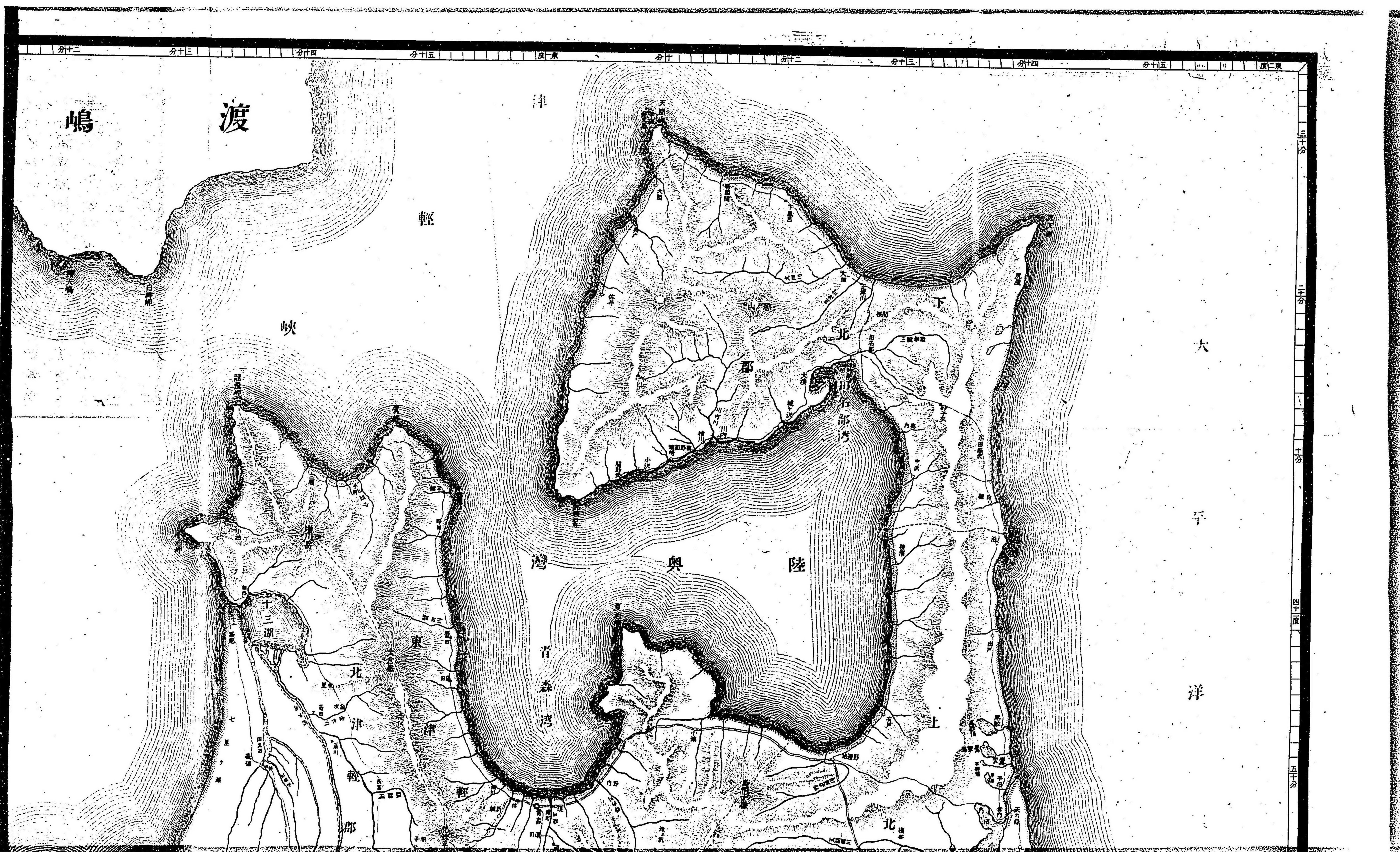
津

青森灣

上

北

三十分 四十分 五十分



分十一 分十二 分十三 分十四 分十五 度一東 分十一 分十二 分十三 分十四

鳴 渡

津

輕

峽

山

下

郡

北

行

郡

水

灣

與

陸

海

北

東

首

森

灣

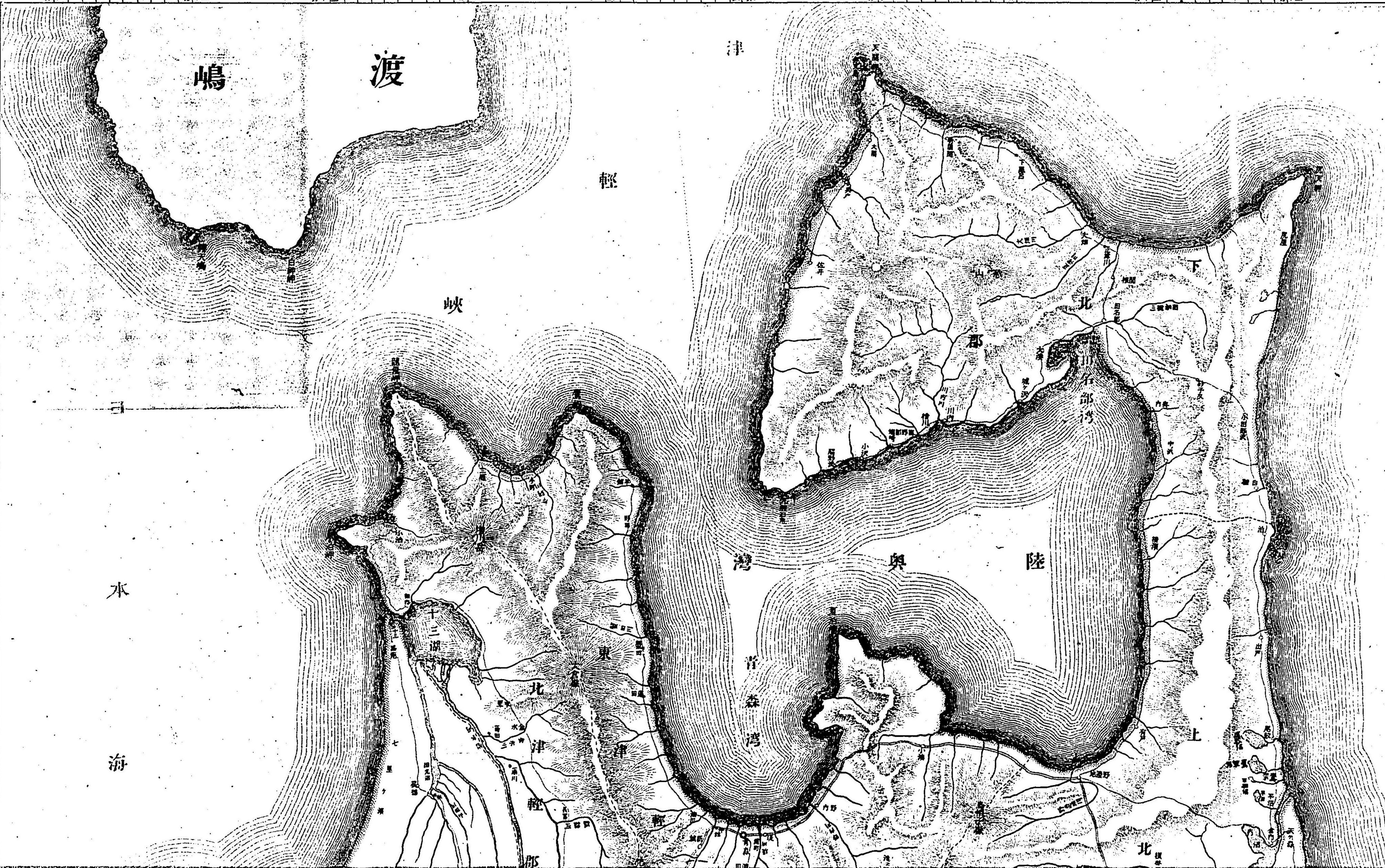
上

津

輕

北

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五



洋

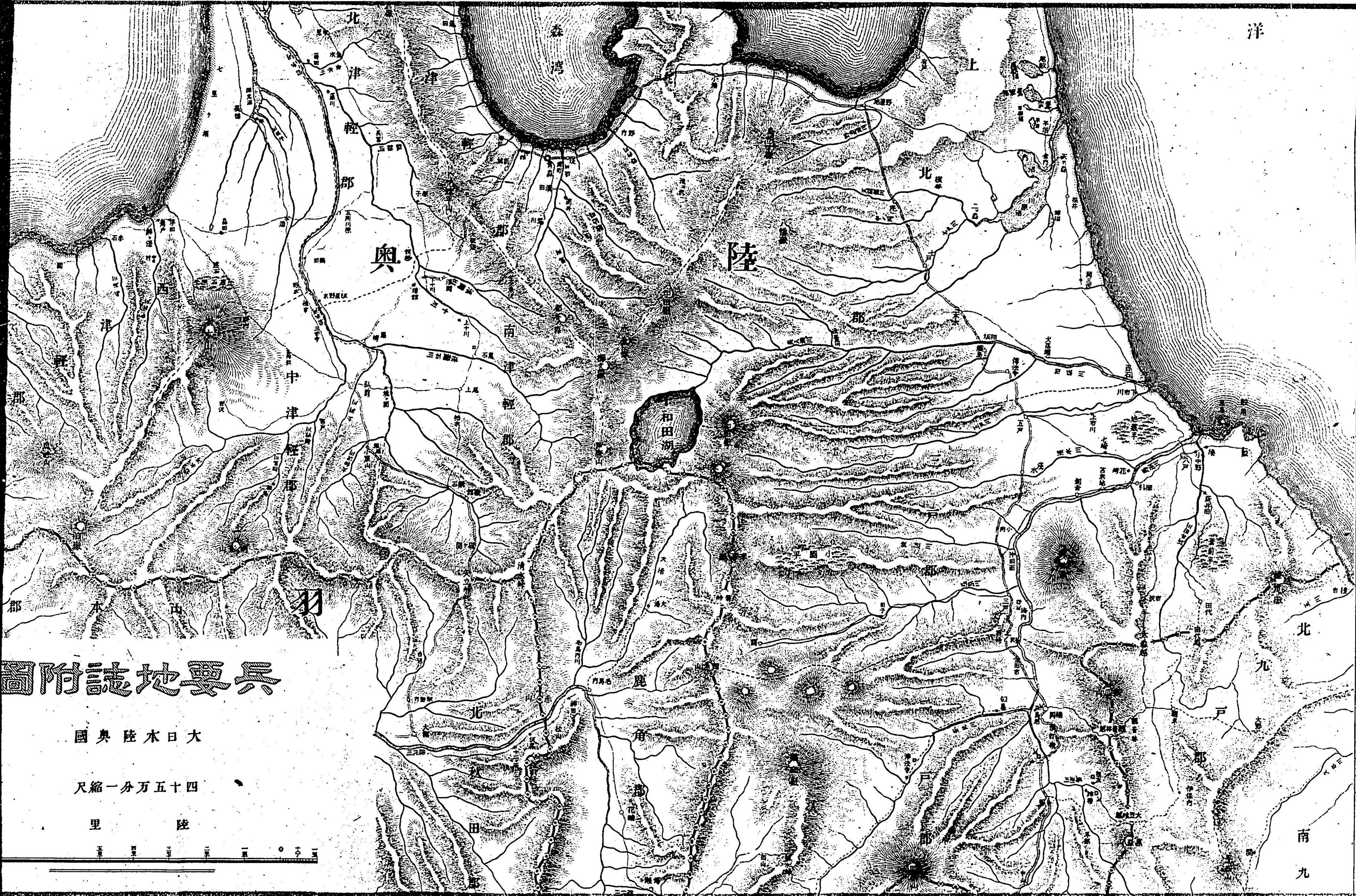
五十分

四十分

三十分

二十分

十分

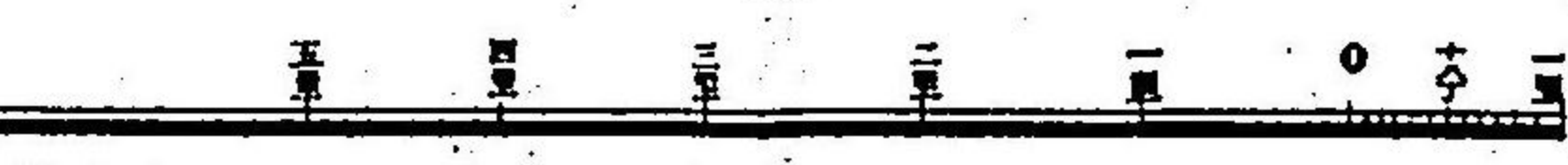


兵要地誌附圖

大日本陸奥國

尺縮一分五十四里

陸奥



北

九

戸

郡

南

九

陸

奥

津

北

津

郡

輕

郡

中

津

郡

羽

郡

本

郡

北

田

郡

上

郡

北

郡

南

津

郡

鹿

角

郡

戸

郡

南

九

郡

海

五十分

四十分

三十分

二十分

十分

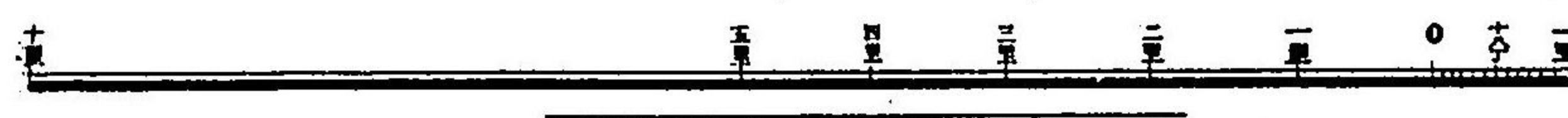


兵要地誌附圖

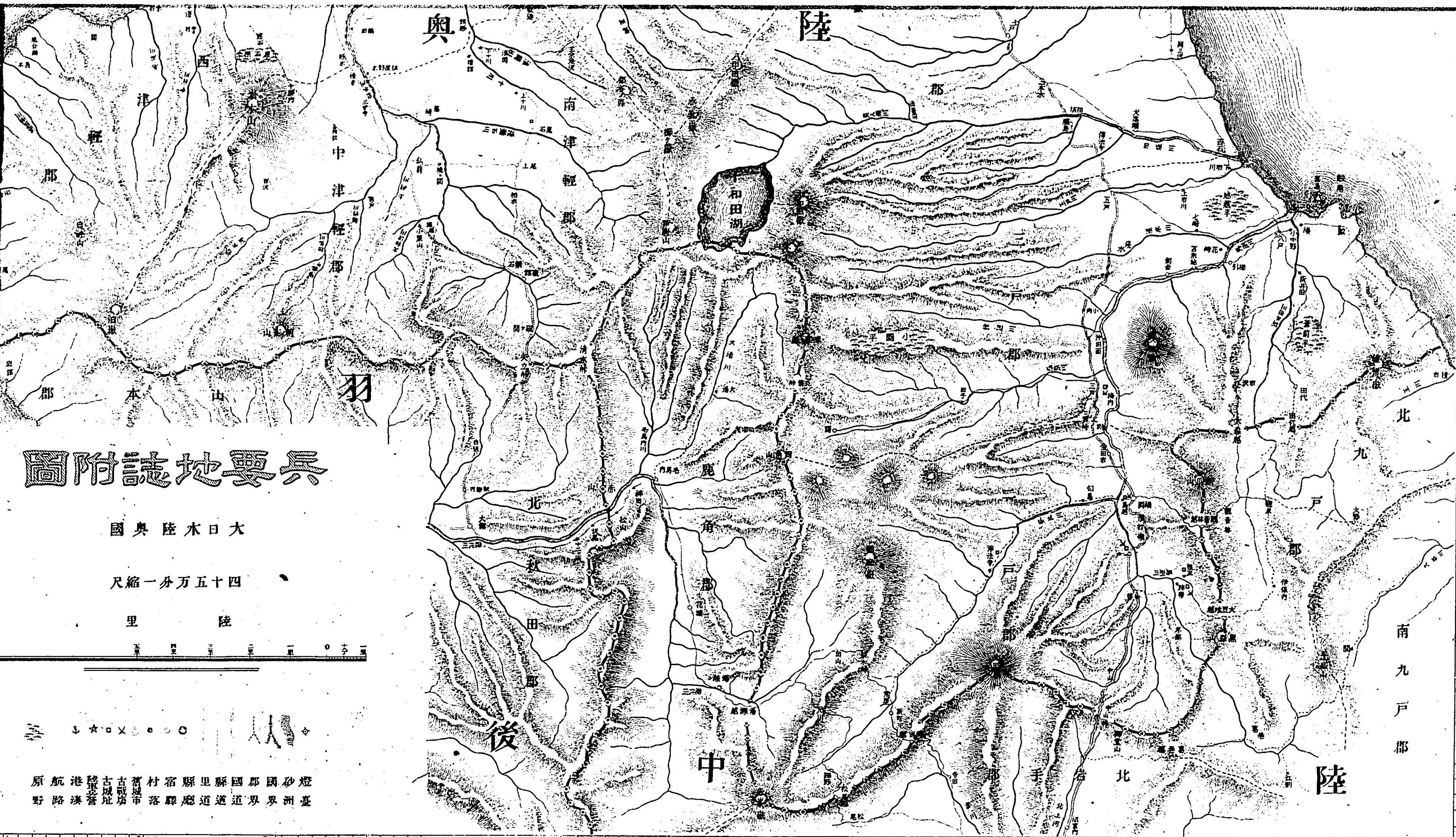
大日本陸奥國

尺縮一分万五十四

里 陸



奧陸



兵要地誌附圖

大日本陸奥國

四十五萬分一縮尺

陸里



○ 燈臺 砂洲 國界 郡界 縣道 宿落 村市 舊城址 古蹟 港路 航野

○ 燈臺 砂洲 國界 郡界 縣道 宿落 村市 舊城址 古蹟 港路 航野

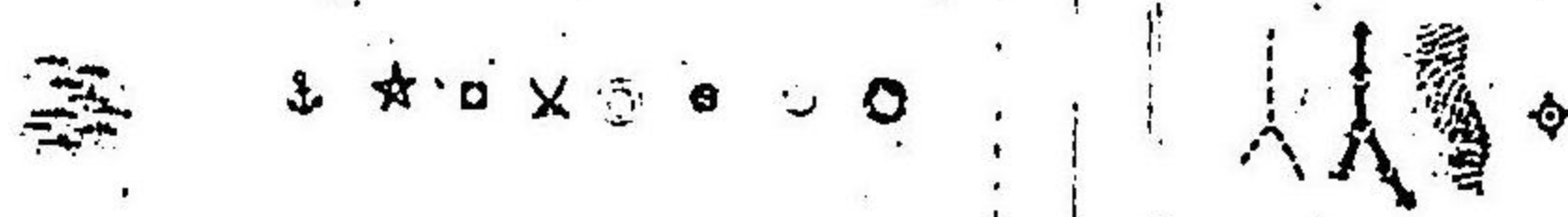
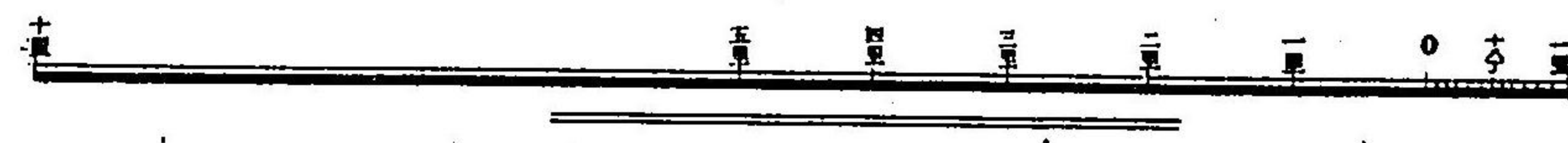
分十二 分十三 分十四 分十五 分一東 分廿 分廿二 分廿三 分十四 分十五

兵要地誌附圖

大日本陸奥國

四十五萬分一縮尺

陸里



燈臺 砂洲 國界 郡界 縣道 縣廳 宿村 舊城市 古戰場 古城址 陸軍營 港路 航野 原

明治二十一年七月

分十四 分十三 分十二 分十一 度一東 分十 分九 分八 分七 分六 分五 分四 分三 分二 分一 分十 分九 分八 分七 分六 分五 分四 分三 分二 分一

陸軍士官學校版權所有
明治廿一年十月二十五日印刷
同 年十一月二日出版 (定價金十貳錢)

東京橋區山下町六番地
東京府士族

版權

發行所 宇津木信夫

同 區同 町七番地

內外兵事新聞局

印刷者 同人

東京

發行所 內外兵事新聞局

